

<教科に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析>

<p>国語の調査結果にみられる特徴と現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法事項など、繰り返しの学習、丁寧な理解が必要なものに粘り強く取り組むことが苦手。 ・言語文化や読むこと、言葉の特徴や使い方に関する事項は正答率が高い。 ・情報に関する事項については極端に正答率が低い。 ・国語科の教師の授業の進め方や教材研究が課題になる。 ・自分の意見や書いてあるものをまとめる記述が正答率が低い。 ・書くことに対する抵抗感がある。そもそも回答をしない生徒も多い。 	<p>数学の調査結果にみられる特徴と現状</p> <p>記述式、短答式、選択式すべてにおいて平均を下回っている。</p> <p>データ分析は比較的出来ているが、それ以外(数と式、図形、関数)は全国、千葉県平均を大きく下回っている。</p> <p>数学への関心も低い。</p> <p>昨年度、一昨年度の本校の生徒に比べ、記述式の点数は上がってきている。</p> <p>単元でみると、数と式の点数が低いので、基本が身につけていないように感じる。</p>	<p>理科の調査結果にみられる特徴と現状</p> <p>理科の勉強が好きと答えた生徒は49.1と全国的にみても関心が低い現状がある。理科の授業で学習したことを普通の生活に結びつけることができる。回答した生徒が、42.5と半分より下回っている。同じ質問で国語では8割近くの生徒が関係あると答えている。この結果から理科を勉強する意義を生徒が理解しておらず、学習意欲に結びついていないことがわかる。</p> <p>理科のすべての分野で理解度が全体的に下回っている。記述問題では全国平均よりもはるかに下回っている。記述問題だけではなく、選択式の問題の正答率も全国平均から見ても低いため、そもそもその基本的な語句を理解していない現状がある。</p>
---	---	--

<質問紙調査の結果にみられる特徴と現状分析>

<p>学校質問紙調査の結果にみられる特徴と現状</p> <p>授業改善と教職員の資質能力の向上が低い。</p> <p>空き時間が生徒指導が多く、教師の教材研究や授業準備の時間に当てることができず、勤務時間も守ることができない。授業力向上を目的とした授業研究を通し、成果としてあげられるものはほとんどないのが現状である。課題として残ったものは、教材と向き合う時間がほしい。また、授業参観や研修の時間を設けられると良い。</p> <p>家庭や地域との連携が一方通行となっている。家庭学習に対する意識も低く、学力が定着しない一つの要因となっている。保護者との連携は、大穴中の課題のひとつである。地域に関しては、小中連携の研究を進めていく予定である。</p>	<p>生徒質問紙調査の結果にみられる特徴と現状</p> <p>学習の関心が低い。</p> <p>関心が低いのは、「わからない」からではないかと予想がされる。小学校からの積み重ねがない。特に、読解能力、基礎的な数学の力が弱く、家庭学習などによる復習がないため、「わからない」部分がどんどん増えていく悪循環に陥っている。「知識・技能」の観点を伸ばせるような指導を心がけいくことが課題である。実態に応じた授業を考えていく。</p> <p>ゲームやスマホの使用時間が短ければ短いほど、各教科の解答への正答率が高まる。</p> <p>自己肯定感が高い生徒の正答率が高い。</p> <p>自分で計画を立てて学習している生徒の正答率は6~8割。(国語8割)</p> <p>1~2年生の時の授業方法が自分に合っていたかどうかに対しての解答は五分五分。</p>
--	--

<改善策・検証方法>

<p>改善目標</p> <p>【教科に関する調査】</p> <p>○知識・技能の確かな習得につながる大穴中の実態に合った「わかる授業」の探究</p> <p>①学習への関心を高める。導入の工夫。</p> <p>②基礎基本の定着を図る。知識・技能の習得</p> <p>③自分の考え方(解き方)を表現できるようになる。</p> <p>【質問紙調査】 《生徒》</p> <p>①教育相談・三者面談の充実</p> <p>②生活習慣の見つめ直し</p>	<p>改善方策 (どのような取組をいつ・どの程度行うか)</p> <p>【教科に関する調査】</p> <p>① 導入の工夫をする。ICT教材の充実。 ⇒授業の興味関心をひくような導入を考える。身近な例を用いながら説明をする。特に、PCを活用した教材を開発する。</p> <p>②学び直しの強化。 ⇒個別指導・机間指導を充実させる。問題を解く時間を多く設ける。単元一つがすべて終わる前に、小テストをフォーム等で行う。繰り返し解けるように設定する。テスト前には放課後に勉強会の時間を設定する。一つの単元で最低1回。</p> <p>③ 見通しを持たせる。ふりかえりの充実。 ⇒指導の見通しを持たせる。(シラバス) また、教師の手本を充実させる。授業の最後の5分間でふりかえりを行う。何ができたようになったのか、次回の課題は何か等、学んだ内容を残すようにする。比較検討できるように、他者の考えを共有できる場面を用意する。</p> <p>【質問紙調査】 《生徒》</p> <p>①保護者、担任、本人と生活習慣、家庭学習習慣について確認することで、現状を把握し各個人で目標を設定する。②生活習慣の点検を行う。ニコニコ点検を年3回行い、経過をみる。</p>	<p>検証方法 (いつ・どのように検証・評価するか)</p> <p>【教科に関する調査】</p> <p>前期末と年度末に、生徒への学習アンケートをとり、生徒が授業に対してどのように考えているのかを分析する。</p> <p>①教科部会を充実させ、授業の内容がどうだったのか共有する。ふりかえりシート等の生徒のコメントから、改善点を見つける。</p> <p>②特に、知識・技能の小テストの回数を増やしていけるように各教科で設定する。</p> <p>③生徒のふりかえりシートを見返して、自分の授業展開の改善点を見つける。</p> <p>【質問紙調査】 《生徒》</p> <p>生活習慣の点検用紙を確認し、数値化することで生活習慣のアドバイスをを行う。家庭学習の方法や時間を可視化し、努力している生徒のノートや学習のやり方を掲示する。小学生にも、掲示物を作成し、意識を高く持てるようにする。</p>
---	--	--

<p>備考</p> <p>【質問紙調査】 《学校》の目標</p> <p>①教科部会の充実。 ②小中連携を意識した地域との連携強化</p> <p>『方策』①週1回の部会で、生徒の実態に合った教材を考える。②小中協議会を充実させ、大穴中学区の課題を整理する。</p> <p>『検証』①ふりかえりシートを読み返し、授業の改善点を見つける。②クラスルームの活用を考えている。</p>
